

2008 年秋学期レポート

第 4 期生 川上恵

【はじめに】

秋学期から 1 年間オーロニ大学で英語研修を受けることになり、大学進学を目標としている為英語を中心としたクラスを取ることにした。受講したクラスは次の通りである。: English151B(Fundamentals of Composition), Deaf189A(Intensive University Preparation Reading), Deaf175(Advanced Grammar Mainstream Student), 数学/Math151A(Algebra) Deaf311(Introduction to American Deaf Culture), Deaf201(Special Project), 体育/TD-148A(Introduction to HipHop)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Reading	Math	Reading	Math	体育
	Grammar	Deaf Culture	Grammar	Deaf Culture	
午後		English151	Tutor	English151	
				Special project	
夜		Deaf culture (見学)			

[クラス]

(English-151B)

出発前に受けた大学の placement の結果とカウンセラーと相談した上で、英語クラスは大学進学を目標としたメインストリームクラスの English151B を受講することになった。しかし 7 つのクラスの中で一番苦労したのがこのクラスである。事前に与えられた課題で最初に下書きを作って、授業中に他の生徒とその下書きを交換して意見を出し合ったり、提出日までエッセイを何度も書き直したりなど時々ついていけなくくじけそうになってしまった時期もあったが、カウンセラー、先生方のサポートでなんとか頑張ってきた。その分、ポイントなどどのように書けばよりよいエッセイを仕上げることができるのか、時間をかけながらも少しずつ把握できたことが、授業を終えた後に感じた収穫の一つである。それだけでなく、12 月に受けた ACT (the American College Testing program) 大学進学統一試験のライティングもこのクラスで身につけることができ、大変役に立った。

(Intensive university pre-reading と Advanced Grammar Mainstream Student)

文法と読解力を高めるために Reading と Grammer のクラスを取ることにした。文法は基礎力を要するので、文法の基礎を再確認するためにこのクラスを受けたことはよ

かった。Reading クラスで利用したテキストは構成の組み立て方を習得するのに参考になった。特にライティングは基礎力が重要なので、文法クラスの先生は繰り返しながらわかりやすく説明してくれたので、苦手な部分もマスターすることができた。

(Introduction to American Deaf Culture)

このクラスは私の希望している分野であること、大学入学する際に単位として認められるので早速取ることにした。このクラスは受講した中で一番興味深かった。ろう学校出身、イングリッシュ出身、デフファミリーの出身などそれぞれ異なったバックグラウンドを持ったろう・難聴者達がろう文化について議論し合ったり、そこから新たな価値観を学んだりなど充実した授業だった。クラスで利用したテキストの一つは、教授達が共著したものであって、本だけでなく実際に講義を通して学べたことが一番よかった。時代の変化、携帯電話やテレビ電話などの技術発展により、その影響でろう文化も変わりつつであることも学んだ。それだけでなく、課題の中にあつた ADA 法や人権について学び、ろう・難聴者の立場をよりよく理解し、個々のアンディティティを再認識するためにこのクラスは必要な場であるとそう感じる。私自身にとってもこのクラスを通して、新たな発見や価値観や視点、反省するべき点などその度に考えさせられる時間でもあつた。

(数学クラス)

大学進学に欠かせない科目であり、レベルを決める前に Placement (能力テスト) を受けた結果、まずは Algebra(代数学)クラスから取ることになった。少人数なので先生は生徒に合わせたペースで進めてくれ、理解するまでに時間はかからなかった。数学は高校以来だったので電卓を片手に数字とにらめっこばかりだったが授業が進んでいくたびに文章問題が増えてきて、その問題の意味を確認してから解答するので普段より時間がかかってしまった。どうしても内容を理解できない場合は、チューター制度を利用して内容を手話で説明してもらいそれから解答することも度々あつた。文章の他に数学の専門用語を覚えるのも最初の頃は大変だったが、英語クラスだけでなく数学クラスを通してリーディング力をつけることができた。代数学が ACT の試験範囲に含まれているので、この数学クラスは大変役にたつた。

(Special project)

Special project は、「Deaf Culture」を担当教員とマンツーマンで指導方法について意見交換するプロジェクトである。毎週火曜日の夜に聴者向けの「American Deaf Culture」クラスを見学させていただいた。火・木曜日の午前中はろう・難聴向けのクラス、火曜日の夜は聴者向けのクラスに参加してどのように指導していくか比較できた。聴者対象クラスは両親がろう者 (コーダ)、ろう児を持つ母親を含む約 20 名近く参加していた。興味深かつた事は授業の最後のあたりに午前のろう・難聴の生徒達が夜のクラスに交流し

て素朴な質問を出し合ったことであった。両方のクラスを通して教える立場としてその担当教員の熟練した指導力に感心させられ、知識だけでなくリーダーシップ、指導力、コミュニケーション力の重要性を感じた。

(まとめ)

スケジュール上、宿題や課題をやりこなすのに大変だった日々もあったが、有意義に学んだことが多かった。今学期を振り返ってみて個人的に一番の課題は英語の語彙を増やすこと、ライティング力をさらに磨く必要があるので進学に向けて次学期も根気よく続けるように頑張りたい。